

# コミュニティ事業団のあり方について【方針概要】

## 1. 事業団のあり方について

### 中間支援組織としての方向性（機能強化）について .....

#### ① 地域型コミュニティの振興

今後地域が直面する課題解決のため、市民や各種団体の主体的な活動を通じて、より豊かな地域まちづくりセンターの運営・充実を図るとともに、アウトソーシングやビジネス手法等の導入提案により、各学区のまちづくり協議会や町内会などの活動を支援し活性化を図ります。

現在は、会計事務など事務的な支援を中心にまちづくり協議会を支援していますが、各まちづくり協議会のニーズに合わせ、コンサルティング業務や人材育成などの支援も積極的に行い、将来を見据えた地域コミュニティの振興を図ります。

#### ② 目的（テーマ）型コミュニティの振興

キラリエ草津を拠点とし、これまで事業団が培ってきたコーディネートスキルにより、各種団体等が持つ特徴や強みを活かしながら、より公益性が高い活動となるよう行動変容を促すことで、市民活動団体や NPO 法人等を中心としたまちづくり活動“市民力を活かした地域づくり エンパワメント”の活性化を図ります。

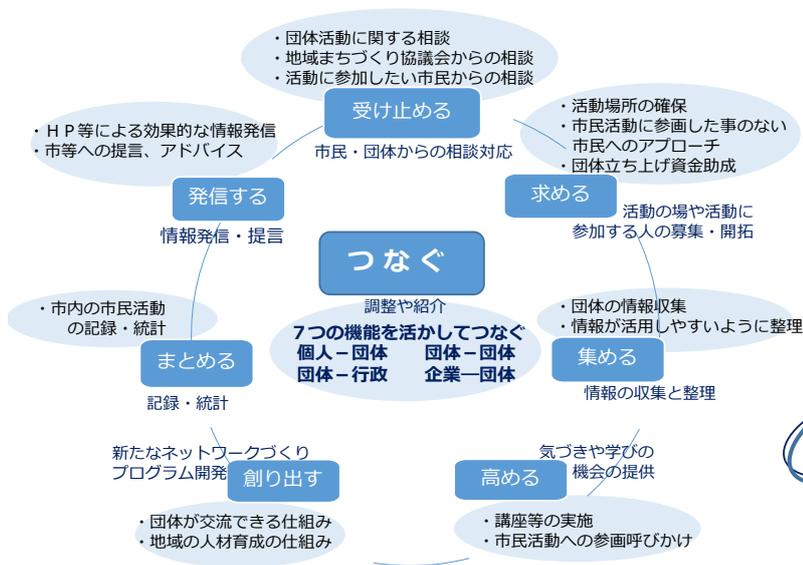
#### ③ 指定管理施設の受託を通じた市の政策実現の支援

健康や福祉の観点から高齢者を含む多世代交流を図るロクハ荘、市内各所にある公園の維持管理を通じた環境や緑化から地域へアプローチする公園事務所、「市民とともに創る」スタイルによる各文化ホールの指定管理では、事業団が持つまちづくりのノウハウを活かし、それぞれの施設の特徴に応じた市の政策実現を支援する事業を展開します。

## 2. 中間支援組織の役割について

中間支援組織である事業団は、団体間のコーディネート、情報収集や発信、相談、人材育成や活動支援等を担います。また、協働を進めるには中間支援組織のより効果的・効率的なコーディネートの役割が重要であり、各主体への支援によるまちづくりの推進、各主体の体制強化に留まらず、主体間のつなぎ役としての機能が求められています。

# コーディネーターの業務&目指すべき姿



★「つなぐ」の仕事がコーディネーターに最も求められる役割

- つなぐ仕事をするためには7つの機能が活性化していることが前提となり、まず中間支援組織としての全体の仕事の質の向上が求められる。
- コーディネート機能を担う職員は、**単独の事業を担当するのではなく、組織の事業すべてを把握しながら団体等と関わる**必要がある。

コミュニティ振興に向け、事業団職員は市民と市民、市民と団体、市民と行政などそれぞれの場面でつなぐ仕事が行われますが、そのためには図示する7つの機能を発揮し、中間支援組織としての全体の仕事の質の向上が求められます。また、様々な市民活動団体が活性化するだけでなく、その市民活動と、まちづくり協議会や地域まちづくりセンター、町内会等の基礎的コミュニティとのマッチングを行い、地域コミュニティの振興につなげることを最終目標に掲げ各種事業を展開します。

- ①地域まちづくりセンターへの関わりについては、現在事務支援が中心であるが、地域まちづくり計画のコンサルティングや各種会議のコーディネート等、まちづくりに関わる支援を積極的に行うことで、地域まちづくりセンター職員のまちづくりに対する意識を高める。
- ②地域課題の把握およびその解決の手法について、地域課題解決応援交付金等の制度を活用して地域が主体的に考えることができるよう、学区単位の話し合いの場に事業団が参画しながら地域まちづくりセンター職員やまちづくり協議会の人材育成を行う。
- ③テーマ型の市民活動団体への支援は、キラリ工草津を拠点とした団体の育成を主軸におきながら、活動場所を地域へ広げるための働きかけを行い、団体の公益性を高めながら市民活動を市内全域に広げることで、地域コミュニティとの融合を図る。

## 【地域型】

- STEP 1**  
気運の醸成
- 地域まちセン職員等の気づき・動機
  - カレッジ等の講演会への参加促進
  - 今後の課題・先進事例の学習
  - ⇒ センター職員のコーディネート能力向上
- STEP 2**  
共感・共考
- 学区単位における話し合いの場づくり
  - 地域で取り組むべき課題の共有
  - 新たな市民団体の参画・新たな仕組みなど
  - ⇒ 医療福祉を考える会議や調地区計画の会議などへ事業団職員が参画
- STEP 3**  
協働・実践
- 学区単位での市民活動の促進・創設
  - ビジネス手法による仕組みづくりなど
  - 交付金等のさらなる効果的な活用
  - ⇒ まち協として町内会活動を支える仕組み
  - 地域まちセンのさらなる運営の充実



## 地域コミュニティの振興

共生社会・生涯活躍の実現

## 【テーマ型】

- STEP 3**  
協働・実践
- 市全域や地域での市民活動の促進・創設
  - STEP 2で意欲的な団体や個人を学区等の話し合いの場への参加をエスコート
  - ⇒ 公益性(地域貢献度)が高い市民活動の充実
- STEP 2**  
共感・共考
- ラウンドテーブルでの話し合いの場
  - 自分たちができること「これならできる」
  - 地域にとって「あったらいいな」を形に
  - ⇒ 各種団体活動の「公益性(地域づくり)」を高める
- STEP 1**  
気運の醸成
- キラリエサポーター等の気づき・動機
  - カレッジ等の市民講座への参加促進
  - 新たな団体・活動者の開拓
  - ⇒ 市民活動の機運や意義の醸成